

県内総合

建設情報*Iwate*

一般会計は5.1%増の114億5320万円

矢巾町 中央1号線の整備など推進 当初予算案

矢巾町の2019年度一般会計当初予算案の総額は、前年度当初比5.12%増の114億5320万円となっている。普通建設事業費は3.8%減の16億2300万6000円。9月に開院予定の岩手医科大学附属病院の東側を通る町道中央1号線の整備などを引き続き進めていく。

当初予算については、予算編成方針の下で▽まちづくり・地域活性化の推進▽社会資本の整備▽公共施設管理等の見直し▽環境にやさしいまちづくりの推進―など15項目の指示事項を踏まえて編成した。

主な歳入では、町税は2.6%増の35億2120万1000円。国庫支出金は18億1875万9000円の1.5%増、県支出金は9億693万4000円の4.0%増と、ともに増えている。町債は1.1%減の10億1770万円。

歳出を見ると、性別別では普通建設事業費が6450万5000円減、率

にして3.8%減の16億2300万6000円。中央1号線や町道安庭線の整備に向けた事業などを推進していく。災害復旧事業費は626万円で、53万6000円の減となっている。

目的別では、総務費はふるさと納税の返礼品における経費増などにより18.1%と2桁の増。ほか、労働費や土木費、教育費などでも増えている。

主な事業を見ると、土木費関連では、道路新設改良事業に9億212万4000円を計上。内訳は、社会資本整備事業に3億6804万円、防災安全対策事業に5億2308万4000円、生活道路整備事業に1100万円となっている。

社会資本整備事業では、測量調査設計業務委託料に324万円、工事請負費に3億3960万円を配分。防災安全対策事業では、測量調査設計業務委託料に2500万円、工事請負費に2億1162万円を盛り込ん

でいるほか、上杉踏切の拡幅へ向け東北本線踏切拡幅工事負担金1億8446万4000円を計上している。

道路維持事業には、1億1632万6000円を措置。内訳は道路維持管理事業が9355万8000円で、交通安全施設整備事業が2276万8000円。道路維持管理事業では、工事請負費に5832万円を盛り込んでいる。

橋梁維持補修事業には、5450万円を計上している。このうち、工事請負費に3950万円を配分。調査設計委託料には1500万円を措置している。

教育費関連では、矢巾町公民館事業の矢巾町公民館整備事業に3934万5000円を計上。外壁等改修工事設計監理業務委託料に129万2000円、工事請負費に3805万3000円を盛り込んでいる。

田園ホール管理事業には、8560万5000円を配分。内訳は、外壁等改修工事設計監理業務委託料178万4000円、工事請負費8041万9000円などとなっている。

ほか、民生費で私立保育園等整備費補助事業に私立保育園等施設整備補助金2208万9000円を措置。小規模保育所の施設改修への補助などを行うとしている。

企業会計を見ると、水道事業会計の資本的支出では、建設改良費に6億1255万5000円を計上。うち受託工事費の工事請負費に1億6562万4000円、第3次拡張事業費の工事請負費には3億774万8000円を盛り込んでいる。

下水道事業会計の資本的支出では、公共下水道資本的支出の建設改良費に2億4194万4000円を計上。内訳は、管渠建設改良費2億2653万8000円、受託工事費1073万8000円など。管渠建設改良費では、工事請負費に1億8900万円を配分している。農業集落排水資本的支出の建設改良費には2833万7000円を計上。うち処理場建設改良費の工事請負費に2850万円を盛り込んでいる。

胆沢愛宕小の校舎で 耐震補強に着工予定

= 奥州市 =

奥州市では、胆沢若柳字愛宕の胆沢愛宕小の校舎について耐震補強を計画している。19年度当初予算案に関連事業費が計上されており、同年度で施工を進める構えだ。発注時期については、状況を見ながら流動的な対応になるとしているが、できるだけ上半期の早い時

期を目指す。

胆沢愛宕小の校舎は、延べ床面積1190平方メートルの普通教室棟、延べ床面積1205平方メートルの特別教室棟の計2395平方メートル。鉄筋コンクリート造2階建てで、1977年に建てられたものとなっている。

以前に実施した耐震一次診断でI s値が0.7以下だったことを受けて、二次診断を実施。結果、校舎の北側で0.48、南側で0.51だったことを受けて、耐震補強を実施する方針とした。

二次診断や設計を実施したのは17年度で、現代建築研究所が担当。18年度は、校舎全体が耐震補強の対象となることから、工程などについて協議、検討する準備期間に当てた。

19年度当初予算案には、3300万円を計上。施工を進める考えで、耐震補強は耐震壁を増設する形で行う。施工に関しては、校舎の北側と南側でこう配などの関係から構造が異なるため、北側と南側に分けて実施する見通しでいる。

県の公共事業事前評価 19年度予算案への反映状況 (1)

県の公共事業事前評価の19年度予算案への反映状況は次の通り。路線・河川名などに続き①個所名②事業期間③主な事業内容④総事業費(千円)⑤総合評価⑥B/C⑦政策への反映状況⑧19年度予算額一の順。

農林水産部

〈かんがい排水事業〉
▽下前①西和賀町②2019～24年度③用水路工1721m④202,000⑤A⑥1.12⑦事業採択⑧25,000
〈経営体育成基盤整備事業〉
▽小山中中央北①奥州市②2019～28年度③区画整理226.1ha④4,947,000⑤A A⑥1.38⑦事業採択⑧9,000

0
▽下横瀬①奥州市②2019～28年度③区画整理174.6ha④4,867,000⑤A A⑥1.30⑦事業採択⑧6,000
▽姉妹秋成①奥州市②2019～2028年度③区画整理55.1ha④1,332,000⑤A A⑥1.11⑦事業採択⑧2,000
▽大森・鳥の海上①金ケ崎町②2019～24年度③区画整理33.3ha④924,000⑤A A⑥1.31⑦事業採択⑧2,000 (つづく)

いわて防災学教室

災害から学び、災害に備える



台風・大雨に「学校版タイムライン」で備える

岩手大学大学院教育学研究科准教授

森本 晋也

2016年の台風第10号では、局地的に猛烈な雨が降り、総雨量約300mmの大雨になった。この大雨により、岩手県では洪水や土砂災害などが発生し甚大な被害がもたらされた。特に岩泉町では人的及び物的被害が大きかった。この台風災害を教訓として、2017年6月14日、学校防災分野における教育研究活動の一層の充実を図るとともに、防災対策及び防災啓発の発展に寄与することを目的に、岩手大学地域防災研究センターと岩手県教育委員会並びに岩泉町教育委員会は、学校防災に関する協定を締結した。協定に基づく主な取組は、防災教育教材の開発、「学校版タイムライン」づくりのリーフレット作成、岩泉町内の児童生徒や保護者を対象としたアンケートの実施等であった。これらの取組は、岩手県(総合防災室、県土整備部河川課)、国土交通省東北整備局岩手河川国道事務所、気象庁盛岡地方気象台から多くの協力を得ながら行われた。本稿では、その中でも、「学校版タイムライン」の取組について紹介したい。

2016年の台風第10号災害の後、本学地域防災研究センターでは、学校の災害対応について聞き取り調査を行った。その中で、休校措置をとるときの判断材料となる情報や判断基準、通信手段が遮断された際の家庭や教育委員会等との連絡手段、停電時の対応、学校の避難所としての対応などが課題として明らかになった。これらの課題を解決する一つの方法として、災害対応について学校を軸としながら「いつ」「誰が」「何をするのか」、家庭や地域、関係機関とどのように連携するのか等を時系列で整理した「学校版タイムライン」の作成が有効であると考えた。岩泉町立門小学校をモデルに「学校版タイムライン」を作成した(図参照)。また、「岩泉町立門小学校版タイムライン」をモデルに、「学校版タイムライン」作成の意義、作成の仕方、判断材料となる気象情報の解説等を掲載したリーフレットを作成し、岩手県内の学校に配布した。

図の「岩泉町立門小学校版タイムライン」では、「気象庁盛岡地方気象台・岩手気仙国道事務所」「岩手県・岩手県教育委員会・岩泉町・岩泉町教育委員会」「学校の対応」「家庭・地域の対応」の項目をつくり、発表になる気象情報や災害情報、各機関の対応行動計画を掲載した。学校や家庭・地域の対応では、2016年の台風第10号災害を教訓に、できるだけ具体的に行動計画を策定した。例えば、気象庁盛岡地方気象台から出される気象情報を収集し、学校が休校措



実証 スマートコンストラクション。

3Dデータで、建設機械と現場と人をつなぐ。経験の浅いオペレータが、整地に挑んだ。現場の仕事は、どこまで変わるのか。

これまでない現場も、これから現場とともに、**SMART CONSTRUCTION**

「スマートコンストラクション」を説明します。
<http://smartconstruction.komatsu.co.jp/>

スマートコンストラクション 技術

KOMATSU D37PXI-23

KOMATSU PC128USI-10

コマツの試験場で、ある実験が行われた。昨年1年13年間の若いオペレータに、水をイメージした油の油圧や整地に挑んでもらう。彼らは、彼らには難しい作業。サポートするのは、二台のICIT建設機械。そして、「スマートコンストラクション」というICITソリューションだ。

ICITリアルタイムデータが土を測り出した。指示データがすでにインプットされている若いオペレータの仕事は、黄色い車体を前後に動かすだけでいい。そう、機械がほぼ自動で作業を進めてくれる。油圧シリンダは、指先や手の甲を器用に使い、法面の斜めのラインを整えていく。本来なら、ベタコンにしかできない作業。精度と速度ではない。

結果は、この通りである。建設現場は、これまでより大きく変わる。現場は、いま大きく変わる。現場は、いま大きく変わる。現場は、いま大きく変わる。

KOMATSU

コマツ岩手株式会社
盛岡・花北・奥南・水沢・釜石・大船渡・遠野・久慈・二戸・宮古

本社/〒020-0891 紫波郡矢巾町流通センター南2-9-5
TEL 019-638-1100(代)
<http://www.e-komatsu.com/iwate/>